

第 36 回 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会総会 (R2.11.13) オンライン

標記総会と安全研修会に参加しました。今回は当番校佐賀大学によるオンラインで開催されました。資料は中川が保存しています。ご覧になりたい方は中川までお知らせ下さい。

- 10:00～12:00 安全研修会
「新型コロナウイルスを使用する遺伝子組換え実験への対応」
13:00～16:00 総会

<安全研修会>

1) 「新型コロナウイルスに関連した組換え実験申請状況と二種告示別表の改正 (予定) 並びに大臣確認実験の様式変更」文部科学省研究振興局ライフサイエンス課 生命倫理・安全対策室 専門官 寺野印成

別表の大きな改正の検討が紹介されました。3 省令第三条の表第三号の文部科学大臣が定める微生物等に SARS coronavirus 2 が掲載される予定です。組換え DNA 実験において新型コロナウイルスはクラス 3 として取り扱われるようになります。機関承認実験となります。2021 年 2 月 15 日に告示改正・即日施行されました。

2) これからのリモート安全教育

1. 「アンケートの回答結果と安全教育の今後」井原邦夫 (名古屋大学・遺伝子協 組換え生物等委員会 委員長)
2. 「オンデマンド配信可能な安全研修用の動画と Web 小テスト」三浦竜一 (東京大学・遺伝子共 教育教材 WG 座長)

令和 2 年度の組換え DNA 実験安全教育の実施形態、新型コロナウイルス関連実験申請の有無、核酸ワクチン実験、についてのアンケート結果が紹介されました。多くの機関において教育訓練がオンデマンドや同期型オンラインで実施されていました。

安全研修用動画と Web 小テストが紹介されました。動画は 2021 年 1 月 21 日に全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会会員に公開されました。島根大学における教育訓練でも活用する予定です。

<第 36 回 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会>

1) 新規会員等の参加承認

正会員：横浜国立大学遺伝子組換え実験安全全問委員会

川崎医科大学組換え DNA 実験安全委員会

暫定会員：シスメックス株式会社 実験管理委員会

2) 文部科学省施策説明

1. カルタヘナ法について

文部科学省研究振興局ライフサイエンス課 生命倫理・安全対策室
専門官 寺野印成

2. 共同利用・共同研究体制の強化・充実について

文部科学省研究振興局 学術機関課 研究設備係（併）研究支援係
係長 齋藤正明

3) 事業報告

1. 遺伝子組換え教育教材動画の作成

三浦竜一（東京大学 教育教材 WG 座長）

2. 第 43 回分子生物学会年会参会

田中伸和（広島大学 代表幹事）

フォーラムプログラム

1F-04 遺伝子改変実験の安全管理の最前線

3. 第 12 回 遺伝子組換え実験安全研修会

（2020 年 7 月 25 日に神戸国際会議場で予定されていたが中止）

4) 委員会等報告

1. 幹事会（広島大学 田中伸和）

遺伝子協の将来構想について検討が行われたことが報告されました。（後述）組織体制についても検討が行われたことが報告されま

した。

2. 広報委員会（宇都宮大学 松田 勝）
3. 組換え生物等委員会（名古屋大学 井原邦夫）
カルタヘナ相談窓口の内容が紹介されました。
4. 教育教材ワーキンググループ（東京大学 三浦竜一）
3本の動画が紹介された。テストは作成中。
5. GeneDrive ワーキンググループ
（沖縄科学技術大学院大学 田中俊憲）
6. 続・ゲノム編集ワーキンググループ（広島大学 田中伸和）
7. 組換えカビ・キノコ・コケ等の拡散防止措置ワーキンググループ
（金沢大学 西内巧）
遺伝子協 HP での公開（2020.5）
8. 実験計画書書式・審査検討ワーキンググループ（理研 吉織肇）
9. 将来構想ワーキンググループ（広島大学 田中）（後述）

5) 決算報告 2020 事業年度中間報告

6) 事業計画、予算案

7) 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会の将来構想についての提案
遺伝子実験施設連絡会議が大学遺伝子協となったが、旧遺伝子実験施設以外の会員が 50%を超えている、研究設備等に関する情報交換へのニーズが低下している、遺伝子組換え実験の安全管理がより重要視されている、等により今後遺伝子組換え実験安全管理に特化する、組織名を変更する、体制を変更する、事務局を変更する、等が検討されていることが紹介されました。新体制は 2022 年 4 月 1 日開始が予定されています。

（中川）